ごあいさつ

第28回道銀芸術文化奨励賞受賞を記念して、小清水町在住の作家 冨田美穂（とみたみほ）さんに個展を開いていただくことになりました。

作家独自の画境で捉えた世界を、是非この機会にご高覧賜わりますようご案内申し上げます。

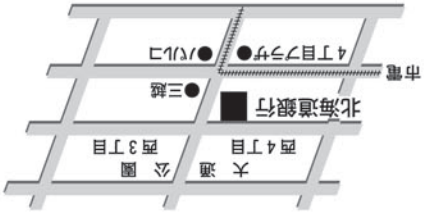
平成31年2月　公益財団法人　道銀文化財団

390
2010年
530cm×70cm

本冊子に掲載されている図版等の無断転載を固く禁じております。

佐伯農場荒川版画美術館
展示風景

公益財団法人 道銀文化財団
札幌市中央区大通西4丁目1番地　道銀ビル別館8F
TEL：(011) 233-1029／FAX：(011) 221-0481
URL　http://www.doginbunkazaidan.org



第28回 道銀芸術文化奨励賞 受賞記念

冨田美穂展

―反芻のかたち―

2019年2月11日（月・祝）～24日（日）
10:00～18:00（最終日は16:00まで）
らいらっく・ぎゃらりい

冨田美穂は東京都の出身だが、武蔵野美術大学在学中に訪れた北海道の農場で〈牛〉と出会い、その姿と存在感に強く惹きつけられた。卒業後はオホーツクの小清水町に移り住み、酪農ヘルパー、従業員として牛の世話をしながら、もっぱら牛をモチーフに木版画の制作を行っている。

日々農場でじかに牛と触れ合う冨田は、その大きさや重量を体感的につかんでいる。その感覚は、毛の一本一本を、手応えを感じながら根気強く板に刻んでいく行為を通して、初めてかたちにできるものなのだろう。真横からほぼ等身大でとらえられた牛の姿は、気の遠くなるような長い時間をかけた線刻の集積であり、モノクロームによる明暗対比の強調ともあいまって、圧倒的なボリュームで見る者に迫ってくる。一方、あたかも肖像画のように頭部のみをクローズアップした作品からは、個々の牛の性格も伝わってくるようで、牛に寄せる冨田の深い愛情が感じられる。

北海道の土と生活に、まるごとその身を投入することから生まれたきわめてユニークな造形である。

苫名　真（北海道立近代美術館 学芸部長）

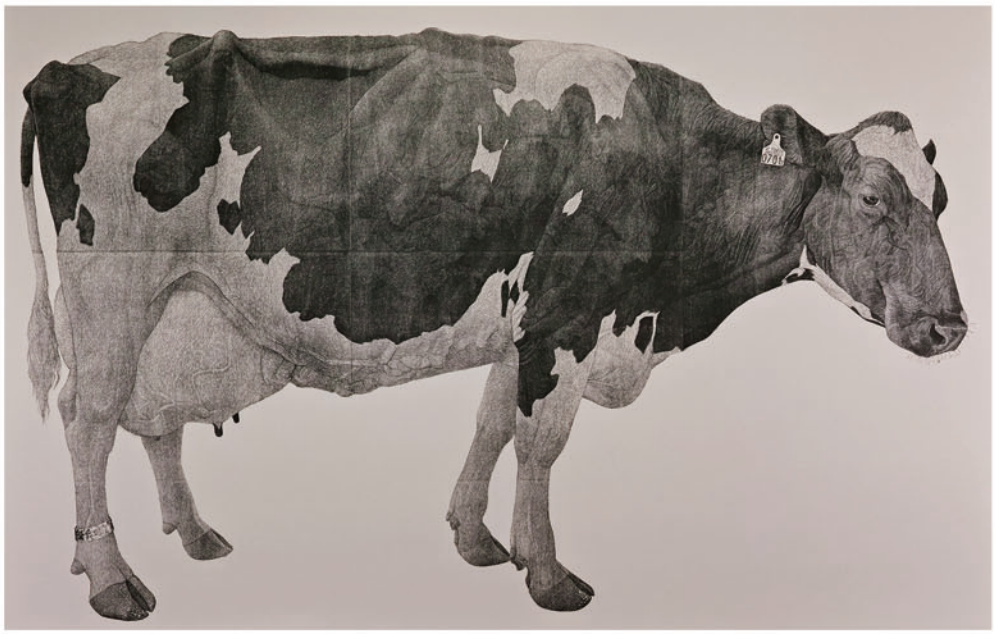
冨 田 美 穂

【略歴】
東京都出身／斜里郡小清水町在住
2004年　武蔵野美術大学造形学部油絵学科版画コース卒業

【主な受賞歴】
2015年　第10回TAGBOAT AWARD 審査員特別賞 小山登美夫賞
2017年　第20回岡本太郎現代芸術賞 入選

【近年の主な活動歴】
〈個展〉
2008年～佐伯農場荒川版画美術館 夏季常設、以降継続（中標津）
2010年　「うしのひとみ」東一条ギャラリー（中標津）
2012年　「牛の温度」アートホール東洲館（深川）
2013年　「牛の木版画」Gallery Retara （札幌）
2014年　絵本「おかあさん牛からのおくりもの」原画展（札幌・中標津・長崎県壱岐）
　＊絵本ー松岩達 作、冨田美穂 絵、北海道新聞社 出版
2015年　「ミニミニセブン　冨田美穂ー牛・ウシ・うしー」網走市立美術館（網走）
2017年　「冨田美穂展　牛のつむじ」Gallery Retara（札幌）
2018年　「牛の足音ー冨田美穂 牛の木版画展ー」神田日勝記念美術館（鹿追）
〈グループ展〉
2013年　「農村の表現者たち～私たちの暮らしとその周辺～」
　アルテピアッツァ美唄（美唄）、雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス（栗山）
2015年　「第10回TAGBOAT AWARD 入選者展」世田谷ものづくり学校（東京）
2016年　「牛展3」3331アーツ千代田（東京）
　「Far East コンテンポラリーアート2016」喫茶風来山人（北見）
　「釧路芸術館×FMくしろ＜path-artと仲間たち＞展」釧路芸術館（釧路）
2017年　「第20回岡本太郎現代芸術賞展」川崎市岡本太郎美術館（神奈川）
〈パブリックコレクション〉　網走市立美術館

大学在学中にアルバイトで訪れた北海道の牧場で出会った「牛」に魅了され、卒業後北海道小清水町へ移住した。酪農ヘルパー、酪農従業員として牛の世話をしながら制作活動を続ける。
これまで佐伯農場荒川版画美術館をはじめとして、道内外において作品を発表し、ジェネティクス北海道機関誌「sire」表紙、情報誌、絵本、ポスターなどにも作品を提供している。



701全身図
2018年
182cm×273cm
板目木版画

凍れる朝の白い牛
2018年
19.5cm×22.3cm
アクリル絵具